教育目標：「自ら学び　心豊かで　たくましく生きる児童の育成」
大道っ子像：　◎よく考え 進んで学ぶ子(知)
◎明るく 思いやりのある子(心)
◎ねばり強く たくましい子(体)

R元年7月8日

第10号

大道小学校 学校だより

絆

文責
大道小学校
校長
大城美千代
TEL917-3308
FAX917-3348

和

「第一回小中一貫合同授業研修会及び校内研全体研」の開催！

七月四日（木）の五校時、大道小学校において、「第一回小中一貫合同授業研究会及び校内研全体研」を開催しました。

指導助言をして頂いたのは五月二十九日（水）の理論研に引き続き、沖縄県立総合教育センターの研究主事「永田聖子先生」です。永田主事には厚く御礼申し上げます。

また、研修会に参加した全先生方（大道小学校・真和志中学校）に感謝致します。

今年度は小中一貫教育の「共通実践事項」として、次の三点の学習規律（①一分間黙想②学習用具の準備③始業ベルと共に始まる授業）を徹底することを共通確認し授業改善を進めています。

また、本校独自としては、校内研究テーマ「主体的・対話的で深く学ぶ児童の育成～説明的文章における言語活動の指導の工夫を通して～」もとに、単元全体の授業や一時間の授業において、三つの視点（主体的学び、対話的な学び、深い学び）の児童の姿を具体的に示して児童の見取り（評価）を行うことを意識して研究を進めています。

中学校の先生方にもその視点で授業参観をして頂きました。

本校の校内研究の強みは、校内研究主任を中心にした「①校内研修での理論研修」「②低・中・高学年部会による指導案作り」「③管理職から授業者への助言」「④隣学級での検証授業」「⑤全体での授業研究会」を通した練り合い」「全職員体制による校内研究が確立されていること等、その本番を迎えることができたのだと確信します。

公開授業は、六年二組（国語科）説明文『森林のはたらきと健康』です。授業後のWS研修会では多くの成果と課題が出てきました。

このように、小中の先生方が合同で授業参観し、WSで練り合いを行うことによって授業力向上に資することは、小中の接続を考えると大変に意義深いことだと考えます。

授業者振り返り

○対話の部分は（どの児童も自分の考えを発表していて）良かった。

○二つの視点（内容と書きぶり）に気がつけたことは良かった。

●振り返りができず、子どもの「主体的な学び」を見取れなかった。

●まとめが「教え込み」になってしまった。

授業研究会（WS）

○小中一貫教育の共通実践事項はバッチリできていた。

○全児童がとても意欲的に学んでいた。

○事前に「音読」で読み込んだ成果が表れていた。

○グループでの発表の様子を観て、中学校でも実践していくことが大切だと思った。

○全文シート活用の手立てがとても良かった。

○グループ内での発表の仕方がなれた様子だった。

●「根拠とは何か？」を明確に理解できずグループ協議が曖昧になってしまったのでは？

●後半は先生が強引に引っ張ってしまって、（深い学びの視点が）もったいなかった。

●交流のポイントの視点（交流の仕方、メモを取りながら聞く等の聞き手の指導、全体の交流の工夫、発問の工夫など）を明確にすると良い。

●「図表があるとわかりやすい。」という児童の意見をもっと深めても良かった。

永田主事からのご助言

○学級の雰囲気が良い。（子ども達が先生を助けようとしている。）

○対話ができる学級作りができている。（男女の仲が良い）

○学年の取組として、「音読」で取り組んで来たことが素晴らしい。

○具体的な「モデル文」があるということが、毎時間の評価規準（ABC）の達成につながる。

○向かっている方向性は素晴らしい。（高学年における）先生の指導は二・三割、残りの七・八割は児童の活動を意識することが大切。

●全文シートは良いが、それが活用されずもったいなかった。

●ラインを引いた後からが大事。視点の焦点化が必要。「内容と書きぶり」については前時に示しても良かった。

●全体交流でいかに深めるか。先生はファシリテーター役になると良い。（本教諭は）今後に伸びしろがある。

°